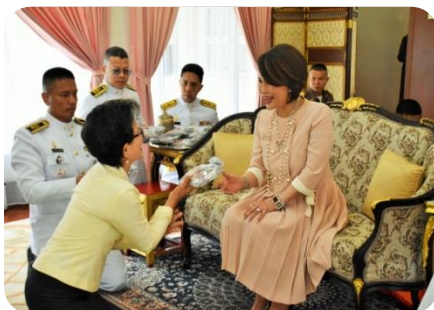


スラム地区の模範青年たちがウボンラット王女に拝謁



ドゥアン・プラティープ財団主宰の「人生を拓く模範青年賞」を受賞した9名の若者たちが4月5日、タイ王宮を訪れてウボンラット王女に拝謁しました。

この賞は、貧困や様々な困難に直面する中で、勉学に励みながら生活環境の改善に取り組んだり、家族を支えながら自分自身の人生を拓くために顕著な努力をしている青年たちを励ますもので、同財団が2008年に創設しました。王宮を訪れたのは昨年の受賞者で16歳から22歳までの女性8名と男性1名。

最年少のネーンさんは小学生の時から財団の奨学金を受けながら勉強し、中学校3年間の成績は3.86とほぼ満点の4に近い成績で卒業し、いま専門学校で学んでいます。最年長のナーリヤさんは、NGO「シーカー・アジア財団」の人形劇団の一員として指人形を巧みに操りながらスラムや地方の村々を巡回しています。

4月5日は故プーミポン国王の長女であるウボンラット王女の誕生日で、お祝いの気持ちを伝えて励ましを受けました。またこの日は2004年の大津unamiで親を失った子どもたちのためにドゥアン・プラティープ財団と協力して孤児院を開設するなど継続的な支援活動を行っているオーストラリアのボランティア団体「Hands Cross the Water」代表のピーター・アンドリュー夫妻も一緒に拝謁しました。

